

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成 19 年 7 月 26 日 (2007.7.26)

【公開番号】特開 2001-340462 (P2001-340462A)
 【公開日】平成 13 年 12 月 11 日 (2001.12.11)
 【出願番号】特願 2000-207545 (P2000-207545)
 【国際特許分類】

A 6 1 M 25/00 (2006.01)

A 6 1 B 1/00 (2006.01)

A 6 1 M 25/08 (2006.01)

【F I】

A 6 1 M 25/00 4 1 0 Z

A 6 1 B 1/00 3 2 0 C

A 6 1 M 25/00 4 5 0 N

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 6 月 8 日 (2007.6.8)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

内視鏡、体腔内観察具、処置具の挿入の補助に使用されるとともに、バルーンの付いたオーバーチューブにおいて、

前記バルーンは、拡張時の圧力が 40 ~ 100 mmHg であることを特徴とするオーバーチューブ。

【請求項 2】

前記バルーンの内圧を測定することにより、前記拡張時の圧力をモニタリングすることを特徴とする請求項 1 のオーバーチューブ。

【請求項 3】

前記バルーンはラテックス性であり、該バルーンが膨張した際に腸管との接触面に均等な圧力がかかることを特徴とする請求項 1 又は 2 のオーバーチューブ。

【請求項 4】

前記バルーンはシリコン性であり、該バルーンが膨張した際に腸管との接触面に均等な圧力がかかることを特徴とする請求項 1 又は 2 のオーバーチューブ。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0004

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0004】

【発明を解決するための手段】

内視鏡の深部挿入が困難となる本当の理由は腸管がたわんでしまうということそのものではなく、たわんだ腸管が伸びてしまうことであると考え、バルーンで保持して腸管の伸展を防止する柔らかいスライディングチューブを採用した内視鏡挿入法を考案した。請求項 1 の発明は、内視鏡、体腔内観察具、処置具の挿入の補助に使用されるとともに、バルーンの付いたオーバーチューブにおいて、前記バルーンは、拡張時の圧力が 40 ~ 100

mmHgであることを特徴とする。請求項2の発明は請求項1の発明において、前記バルーンの内圧を測定することにより、前記拡張時の圧力をモニタリングすることを特徴とする。請求項3の発明は請求項1又は2の発明において、前記バルーンはラテックス性であり、該バルーンが膨張した際に腸管との接触面に均等な圧力がかかることを特徴とする。請求項4の発明は請求項1又は2の発明において、前記バルーンはシリコン性であり、該バルーンが膨張した際に腸管との接触面に均等な圧力がかかることを特徴とする。